実践報告

高１の地理総合授業「現代日本を探究する」ポスターセッションの取り組み

鷗友学園女子中学高等学校　吉田　裕幸

1 はじめに

文部科学省「地理歴史編　高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説」において，地理総合での中項目「生活圏の調査と地域の展望」は地理総合の学習の集大成として位置づけられており，実際に観察や野外調査，文献調査などを行うことによって，そこに存在する地理的な課題を見いだし，その解決策，改善策を考察，構想することが期待されていると述べられている。

本校では，毎年[1]高校１年生の地理総合（２単位）のうち12時間程度（約１か月半）を配当して，「現代日本を探究する」と題した探究活動を行い，最終的な成果報告としてポスターセッションを行っている[2]。この報告では，2024年度に実施した授業実践を元に記述する。

2 スケジュール

10月中旬から12月上旬にかけて，次の①～⑥の流れで進めている。なお，この時期に設定した背景としては，一年間の地理総合の授業の中間地点にあたり，ここまで学習した知識やGISのスキルが活用できることが挙げられる。

①10月中旬：探究アイディア案提出

自分の興味･関心に基づき，問いの形でアイディアを提出･共有する。

②10月下旬：探究学習の目的・流れの確認，グループ編成

探究活動の目的や流れについて全体で説明したのち，類似テーマをもつ生徒同士３～４名でグループを構成し，探究をスタートする。

③11月：テーマ決定～調査～ポスター作成

テーマの絞り込み，問題意識の整理，調査方法の検討，文献・統計・聞き取り調査，地図や図表の作成，発表要旨・ポスターの作成を行う。この際，授業外の負担を過度に増やさないよう，「調査・作成は，出来る限り授業時間内で完結させる」ことも伝えている。

④11月末：成果物の提出

ポスター本体と発表要旨（400字以内）[3]との２点をGoogle Classroomに提出する。

⑤12月上旬：ポスターセッション

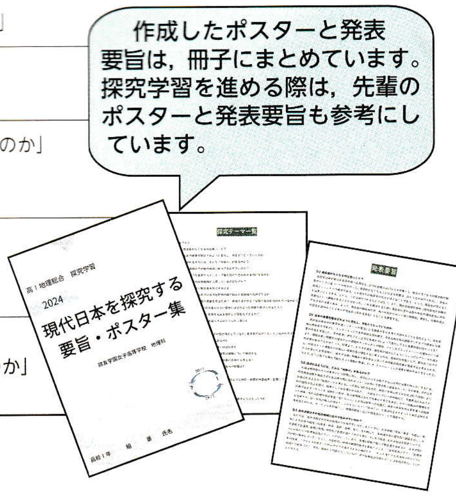
学年全員が参加するポスターセッションを，本校の体育館で実施する。

⑥12月中旬：相互評価・振り返りの提出

生徒同士の相互評価と，個人の振り返りを提出させ，学びを言語化する。

表1 生徒が設定した探究テーマの例

ジャンル	テーマの例
まちづくり・地域活性化（19テーマ）	「世田谷区はなぜ空き家が多いのか～空き家を減らすためにはどうすれば良い？～」 「島根県海士町が地方創生に成功したのはなぜか」 「なぜ第６次産業で馬路村は活性化しているのか」
環境・エネルギー（7テーマ）	「なぜ関東で再生可能エネルギーの発電量が増えないのか」 「地方のリサイクル政策を都市部で最適化させるためにはどうすればよいか」 「クマと人間が共存するにはどうすればよいか」
観光（7テーマ）	「なぜオーバーツーリズム問題が発生しているのか」 「なぜ函館は観光都市として栄えたのか」 「的山大島を若者が中心に訪れる観光スポットに開発するにはどうすれば良いか」
健康・福祉（6テーマ）	「地方部と都市部の医療技術や医療の質の差が生じているのはなぜか」 「今後の農福連携のあり方とは？」
食・農林水産業（10テーマ）	「日本とフランスの郷土料理から見て日本の郷土料理にはどのような問題があるのか」 「日本の漁業の自給率を上げるためにアクアポニックスは最適解なのか」 「なぜ石川県ではアイスが売れるのか」
地域・社会（15テーマ）	「同名の地名をもつ市区町村にはどのような関係があるのだろうか」 「神社の立地条件とその理由は何か」 「山小屋の経営と食料事情は地理的背景とどんな関係があるのか」
自然災害・防災（9テーマ）	「都市型水害に強いまちづくりとは？～世田谷区を事例として～」 「能登半島地震から考える：地震発生後にAIをどのように活用していけば良いのか」 「災害に備えて私たちは何ができるのか」



3 生徒が探究したテーマ

2024年度は73テーマ（生徒256名）あり，以下の**表1**のように整理できる。

全体を通して，地域課題（地域活性化，限界集落，空き家問題など）の原因分析と解決策の提示を行うもの，立地・空間配置の理由を読み解くもの，地域の比較（関東・関西，都市・地方，北海道・本州など）によって構造を明らかにするものが多い傾向にあった。

4 評価規準と調査手法

探究活動を開始するにあたり，評価規準は以下の３点であると説明している。

> ① 問題を発見する（課題設定）
> ➡「現代日本を探究する」というテーマに沿った興味深い問いを立てたか？

> ② オリジナルなデータを提示する（調査）
> ➡独自の調査や作図を行うことができたか？

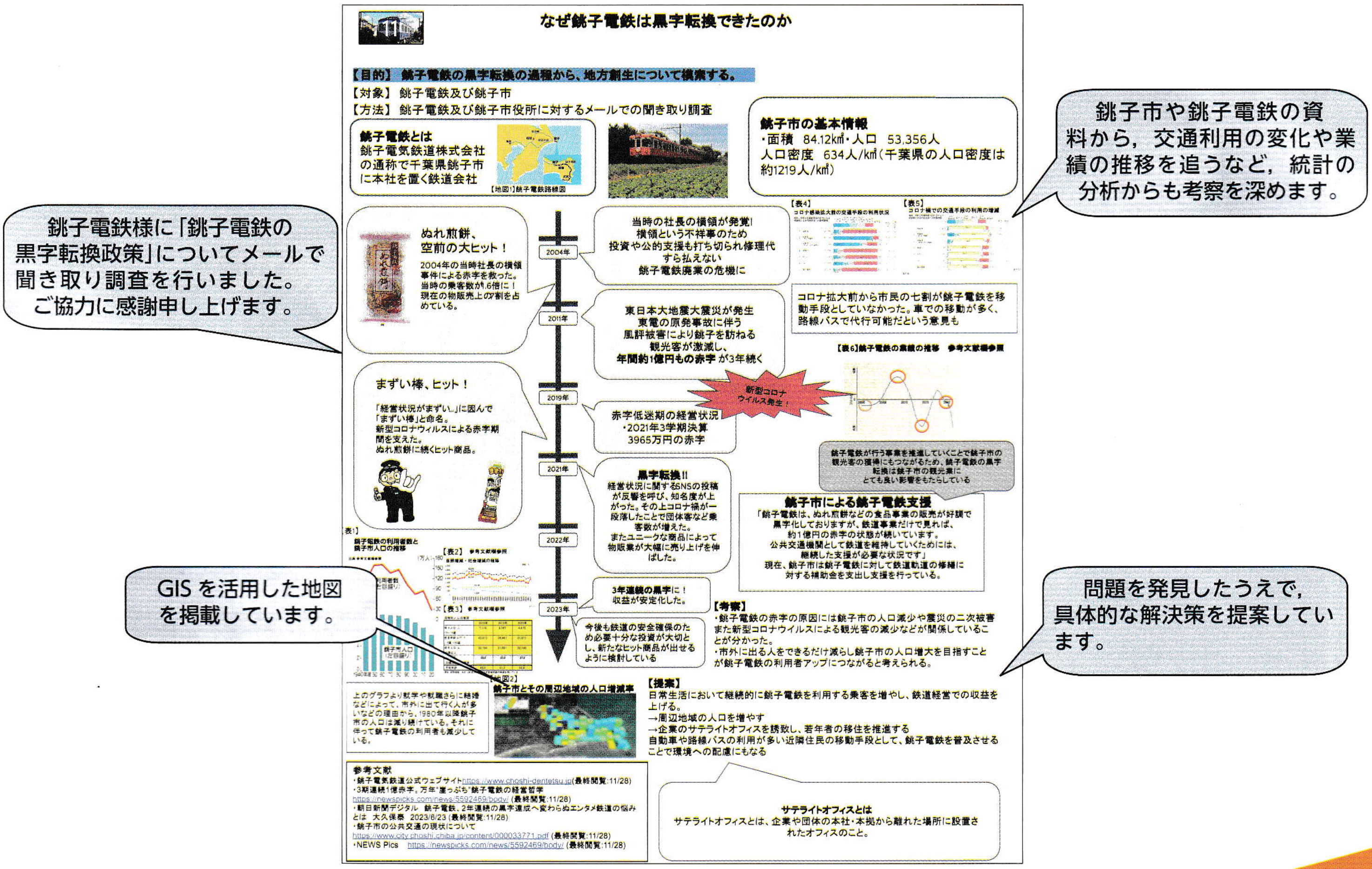
> ③ 問題を解決する（考察）
> ➡現代日本の実情に合った具体的な解決策を提案できたか？

①については，問いと答え（仮説）のループを繰り返すことで問いをブラッシュアップさせることの重要性，また，問いの設定においてはできる限り具体的な事例に落とし込むことの重要性をそれぞれ強調した。

②については，聞き取り調査とオリジナルの地図作りに出来る限りチャレンジするよう促している。聞き取り調査では，行政・自治体，企業や大学・研究機関，NPO法人など，2024年度はのべ150の団体にお世話になった[4]。手法としては，メール·問い合わせフォームが約６割と最多だが，電話，Zoomや対面での聞き取り調査にチャレンジしたグループも多く存在した。「聞き取り調査は初めての経験であり，礼儀などを学ぶことができた」と振り返る生徒や，外国人観光客へのインタビューを通して，「英語を使う楽しさや自分の英語が伝わる喜びを感じる良い経験になった」と語る生徒もいた。聞き取り調査を通して，多面的な力が育成されたと考えられる。また，オリジナル地図作りにおいては，授業内でも紹介した「地理院地図」「今昔マップ」「RESAS」「MANDARA」や，地域統計をGISでグラフ化するソフトなどを用いている生徒が多くみられた。

③については，単なる「調べ学習」に終わらず，解決策を提案するなど問題に主体的にかかわる姿勢が大切であると説明した。

生徒の発表したポスター



5 ポスターの形式とポスターセッション

ポスターの形式は，次の表の通りであり，作成の際は，タイトルで提示した問いが，結果・考察でその答えが明確に分かるようにすることを強調した。これは，生徒がポスターを見比べる際，「何を見ればよいか」を明確にするという目的もある。

ポスターセッション当日は，本校体育館に学年全体が集まり，発表（３分間）と質疑応答（５分間）の計８分間を，５回ほど繰り返す形式で行っている【写真1・写真2・写真3】。当日は学年生徒・教職員に加え，受験希望者も訪れ，生徒は発表や質疑応答に対応することで大きな刺激となった。

要素	内　　容
①目的	研究の目的は何かを記述する。
②対象	どこを対象（フィールド）としているかを記述する。
③方法	どのように研究したのかを記述する。
④結果	どのような結果が得られたのかを記述する。
⑤考察・提案	結果を踏まえてどのように考えたか（提言を含む）を記述する。

事後の生徒の振り返りを分析すると，ポスター作成でうまく行った点として，「文字量を絞り，図や表で整理した」「地図・グラフ・写真など視覚資料を積極的に活用した」「他班と重複しないオリジナリティのあるテーマや提案ができた」「テーマ・タイトルと結果・考察・提案の対応関係がはっきりわかる構成にできた」ことを挙げていた。

また，質疑応答においては，「原稿に頼らず，聞き手の反応を見ながら説明を調整できた」「質問に対して，補足情報を添えて答えられた」などうまくいった例や，「答えに詰まってしまった」「良い質問が思いつかなかった」といった反省も見られた。ポスターセッションならではの質疑応答を通して，双方向のコミュニケーションでの経験を積むことができたと考えている。

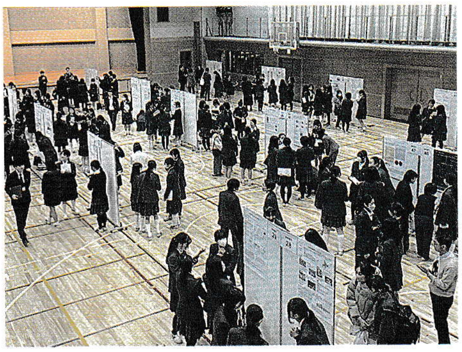


写真1 発表のようす（全景）

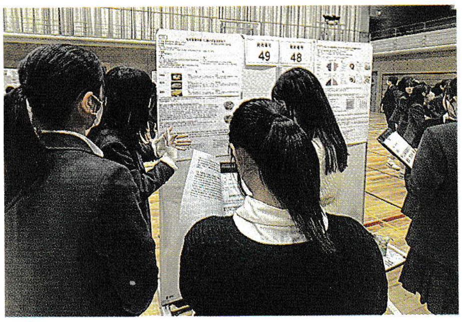


写真2 発表のようす

写真3 発表のようす

ただ発表するだけではなく，質疑応答を通して発表者聴衆で意見を交換し合っています。

生徒の発表したポスターの２事例

6 探究活動を通して身についた力と今後の展望

生徒の振り返りを分析すると，この探究活動を通じて身についたと感じている力は，以下の４点に整理できる。

①調査手法を多角的に組み合わせる力

文献調査では複数の資料を比較することの重要性に気づいたり，聞き取り調査に挑戦したことで一次情報の価値を実感できたりした。

②データを可視化し，根拠をもって語る力

オリジナルの地図や図表の作成を通して，数値や空間的分布を根拠として議論を組み立てる力が育った。

③問いを修正しながら探究を深める力

調査が行き詰まったとき，臨機応変にテーマを変更したり再定義したりする経験を通じて，｢問い→仮説→検証→問いの再設定｣という探究のループを体感できた。

④協働してプロジェクトをやり遂げる力

グループ内での役割分担の難しさや情報共有の不足といった課題を克服し，期限内に成果物を仕上げる経験を積むことができた。

この探究学習を通して，聞き取りを含めた多面的な調査と自ら作成した地図をもとに，日本の諸課題に対して主体的に語れるようになってほしいと考えている。実際，この発表をブラッシュアップして日本地理学会の高校生ポスターセッションに挑戦したり，ポスターセッションが進路を考える上での大きな転機になったと語ったりする生徒も登場している。

これからも本実践のアップデートを続けていき，本校での探究活動の一つの軸として育てていきたいと考えている。

1 本実践は，1999 年度から（当時は高校２年生理系対象の選択「地理Ａ」で）実施している。

2 この期間は，講義や定期考査も実施せず，評価も探究活動に完全に振り替えている。

3 日本地理学会の高校生ポスターセッションの要項を参考に設定した。

4 調査にご協力下さった銚子電気鉄道株式会社様のご厚意で，犬吠駅に生徒が作成したポスターを掲示して頂いている。

渋谷のまちの個性とは？

～没個性化した渋谷を個性にするには～

47

目的

渋谷の現状を知り、見失われつつある渋谷のまちの個性を明らかにする。その上で、その個性を最大限活かせる新たなまちづくりを提案する。
対象：渋谷
方法：渋谷駅周辺の外国人観光客、スクランブルスクエア社への取材

歴史

1885年	最初の渋谷駅建設
1940年代	戦争の影響で焼け野原に →闇市の文化が生まれる
1960年代	安保闘争の舞台とならなかった渋谷にNHKを筆頭とする企業の本社が移転 →西武百貨店。渋谷パルコの建設
1979年	109創業(ターゲット層なし)
バブル後	ハイティーン向けのブランドのみ売上をキープ →109が若者向けの施設となる
2000年代	オフィスが増え没個性化したまちに

比較

タイムズスクエア（アメリカ）との比較
相違点：スクランブル交差点のような交差点がある
渋谷→駅から離れると小さい建物が増える
タイムズスクエア→全て高層ビル

出典:kosublog　　シブヤ経済新聞
→渋谷は様々な側面を持った都市だとわかる

フィールドワーク①

スクランブル交差点前の外国人観光客18名にインタビュー

外国人は日本人にない客観的視点で渋谷をとらえられるのでは？

①渋谷に訪れた理由
・景色　・ハチ公　・スクリーン撮影
→駅周辺で完結、明確な理由がない

②渋谷の魅力
・カラフル　・キラキラ　・スクリーン　・賑やか
→キラキラとした賑やかさ

③渋谷に足りないもの
・コミュニティ
→そもそも渋谷のコミュニティとは何なのか？

フィールドワーク②

渋谷スクランブルスクエア社の方に取材を行った。

渋谷は他のまちと比べ接点が多く特殊
→個性となりうる

①渋谷の「個性」とは
・職・住・遊の融合
・文化、情報の 発信地
・魅力的な周辺地域

②今まで直面した課題
・まちの機能をとめない 開発
・様々な人との合意形成
・工事費の調整

③今後の渋谷のまちづくりで目指すべきもの
・場所に価値を持たせる
＝実際に来てもらいたいと思ってもらえるまちづくり

④渋谷でコミュニティをつくるには
・渋谷全体のコミュニティは難しい
→現在は、オフィスワーカー同士のコミュニティなど小さなコミュニティ
→今後は小さなコミュニティを増やす？

提案

わたしたちの目指す渋谷
動き続け、何度でも訪れたい日本の玄関に

1)区分け
小さなコミュニティ→小さく区分けで足りない意識軽減へ
区域を細分化し、まちの刷新を絶え間なく続ける
→渋谷を止めない
常に新しい文化を発信し続ける最先端のまちへ

2)流動性
新たな文化を発信する拠点として流動性のあるまちに
例)「期間限定」装飾やイベント
→その時々に合わせ、人との「接点」を増やす
その「流動性」こそが渋谷の唯一無二の個性となりうるのではないか？

【まちの刷新サイクル】
計画　準備　稼働

スマホ1台で楽しめる　行かないと体験出来ない
視覚　聴覚　嗅覚　味覚　触覚
例　景色　音　空気　食べ物　イベント

リアルの価値を訴え続ける
「まち」の軸は「リアル」
→キーワード：五感

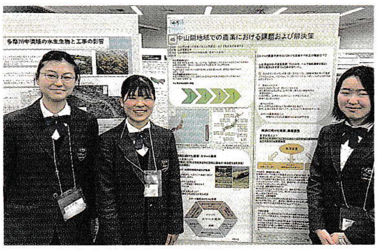
「見たい」ではなく「行きたい」へ

参考文献
東京大改造2030都市の景色を変える100の巨大プロジェクト　株式会社日経BP　2024年4月発行
没個性化した渋谷 https://toyokeizai.net/articles/-/305038?page=2（最終閲覧日 2025/3/13）
渋谷がもはや｢若者の街｣じゃなくなった深い理由https://toyokeizai.net/articles/-/722138?display=b（最終閲覧日 2025/3/13）
渋谷区の歴史区の紹介https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kusei/shibuyaku/introduction/history.html（最終閲覧日 2025/3/13)）
多様性の街・渋谷の秘密とは？ https://shibuya-city-record.tokyo/citystory/article/article-001/（最終閲覧日 2025/3/13）
東京大改造2030都市の景色を変える100の巨大プロジェクト　株式会社日経BP　2024年4月発行
アースダイバー　中沢真一　株式会社講談社2019年3月発行
東京の創発的アーバニズム　ホルヘ・アルザマン　株式会社学芸出版社2022年10月発行

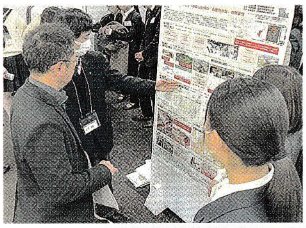
日本地理学会 高校生ポスターセッション

日本地理学会の学術大会（春季・秋季の年２回）では，高校生ポスターセッションが行われています。

探究活動に取り組む全国の高校生と交流し，大学の先生などの研究者から自分たちの研究に対して直接コメントを頂くことができる，大変貴重な機会になっています。特に，１時間程度の説明・質疑時間帯であるコアタイムは多くの人々でにぎわい，さながら「地理の甲子園」といった雰囲気もあります。2025年度は，春季に対面で70の，秋季はオンラインで22の研究発表が行われました。今後の日程や募集要項等詳細については，日本地理学会のWebサイト（https://www.ajg.or.jp/hsp/）をご確認下さい。



2025 年度春季大会のようす
（鷗友学園女子高等学校，筆者撮影）



2025 年度春季大会のようす
（宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校，上田聖矢撮影）